

無題

山城10回 北山 日佐子

(旧姓 広瀬)

十回卒業生は入学して半世紀が過ぎました。恐ろしい様な年月です。今三年間を振り返ってみますと、青春そのものでした。当時は偏差値で入学校が決まることもなく、特別の入試勉強もせず入学しました。女子は制服はなく紺のブレザーとプリーツスカートが基準服として有り、式や学校行事の時にだけ着用しました。普段は全く自由で校風そのものを表していた様に思います。就職や結婚を経て、大勢の人々と接しましたが、誰と話しをしても山城高校程遊んで楽しく送れた人は他にありません。

月曜日の朝のアッセンブリーでのフォークダンスは好きな人の近くから入り一緒に踊り悦んでいました。淡い恋もしました。体育行事の一番の思い出は校内ポートルースです。クラス対抗で二年生の時優勝しました。瀬田迄行き、真っ黒に日焼けしたのを覚えています。三年生の体育祭が西京極のグラウンドで行われ、はしゃいでいました。いつも青春していました。

授業の合間には食堂へ行き、早弁したり、三日月眉毛の売店のおばさんは、友人関係のニュースを知らせて下さる放送局でした。修学旅行ものんびりと九州南の旅でした。規定のブレザーの下の子供の国では沢山の写真を撮ったのもなつかしいですね。帰りの船で一夜明かすのですが、甲板で関西学院大のマンダリンクラブの面々と一緒に、夜中話していました。高校生にとって魅力的でした。全く、青春真っ直中でした。

試験が終われば映画部で安いチケットを買い映画を見ました。学校からも団体鑑賞が有り、後日感想文を書いたりしました。映画が唯一の娯楽でした。

授業の中で今でもよかったと思うのは、体育館での体育の授業で毎回始めの十分間、床の板目に沿って歩く練習です。腰から前に出て真っ直ぐ足を運ぶのですが、街で美しい歩き方をしている人を見かけたら、これをした人と思いたいと迄云われました。

山城高校卒と云う文字を何かの折に見ると年令がずーと離れている人でも知っている様な気分になり、親しみを感じます。山城卒ですと云えることがいつも誇らしく、自信を持って語れます。沢山の友人との思い出は財産だと思っています。

高校生でしか出来ない経験を大切に豊かな思い出が出来る校風をいつ迄も続けて欲しいと願っています。